

平成 22 年 6 月 18 日

各 位

日本農産工業株式会社

平成 22 年 7～9 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 22 年 7～9 月期の畜産配合飼料価格について、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 22 年 4～6 月期の価格に据置ことを決定致しました。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 7 月限は ϕ 340～370/ブッシェルの範囲での取引となっています。

シカゴ相場は中国による買付により一時上昇しましたが、米国産とうもろこしの作付が順調に進んでおり、中国の買付数量が限定的との見方から反落しました。その後、エタノールなどの好調な需要が確認され、直近では再び相場は上昇しています。

今後は、7 月中旬以降の受粉期の産地天候状況が問題となりますが、高温・乾燥による生産量の減少が懸念されています。

2. 副原料（植物蛋白原料）

南米産大豆の豊作が確定し、米国産大豆の作付も順調に進んでいます。中国の旺盛な大豆輸入が継続しており、シカゴ定期大豆期近相場は ϕ 930～1,000/ブッシェルの範囲での取引となっています。

シカゴ定期大豆粕相場については、直近では \$ 290/ショートトン前後の相場水準となっています。7～9 月期間渡し条件の国内大豆粕価格は、4～6 月期間とほぼ同水準となる見込みです。

3. 海上運賃

パナマックス級本船の運賃価格は、南米産大豆・穀物の輸出需要や中国からの石炭輸入の好調により、\$ 70 台後半水準から一時 \$ 80 台水準となるなど、堅調な推移となっています。

4. 外国為替

米国の景気動向や欧州諸国の信用不安により、ドル/円相場の動きが激しくなっています。米国景気の回復傾向の反面、欧州諸国の財政・金融問題があり、一方的な円安傾向にはなっていません。直近のドル円相場は、90～92 円の範囲での取引となっています。